学校番号	３０６

令和３年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	家庭総合　自立・共生・創造　（東京書籍株式会社）						
副教材等	自立・共生・創造　家庭総合学習ノート　教科書準拠　（東京書籍株式会社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇家庭生活に関心をもち、主体的・積極的に取り組みましょう。
・生活の様々な現象や課題をワークショップや演習等を通して考え、理解を深め知識を身に付けます。友だちの考えを知り、多様な考え方を学び、自分の考えをもちましょう。
・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身に付けます。
・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活をめざします。

2　学習の到達目標

人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画 製作計画 実習記録表 レポート 発表 自己評価　等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画 製作計画 実習記録表 レポート 発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作品 観察記録表 レポート 発表 定期考査 実技テストの結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 調理計画 製作計画 実習記録表 観察記録表 レポート 発表 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第1章　自分らしい人生をつくる	○家庭科の学び方 ○自分らしい人生をつくる 1. 生涯発達の視点 2. 青年期の課題 3. 目標を持って生きる	 ○	 ○	 ○	○ ○	a:生涯発達の視点でライフステージごとの発達課題に関心をもち、学習活動に取り組もうとしている。 b:生涯発達の視点から、青年期をどのように過ごすかについて、具体的に考え、意見をまとめたり、発表したりしている。 c:新聞や書籍、インターネットなどを活用したり、身近な知人へのインタビューをしたりすることにより、事例研究や演習やなどに必要な資料を収集したり、調査したりすることができる。 d:生涯発達の視点から書くライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 青年期の自立や男女の社会的役割について理解している。	授業観察 ノート ワークシート 発表 定期考査
		○自分らしい人生をつくる 4. 人生をつくる 5. 家族・家庭を見つめる 6. これからの家庭生活と社会	○	○		○	a:家族・家庭と社会との役関わりに関心をもち、男女が協力して家庭を築くという視点から学習活動に取り組もうとしている。青年期の課題や家族・家庭についての学習を自分の問題として捉えようとしている。 b:具体的な事例や事象を通して、これからの家族・家庭のあり方について考え、まとめたり、発表したりしている。 ワーク・ライフ・バランスの視点から、職業労働のあり方について考え、まとめたり、発表したりしている。 c:自分の人生をどのように送るか、関連資料などを参考に将来を想像しながらまとめることができる。 d:生活に関わる法律の基本的な趣旨、家庭生活を支える社会制度や社会福祉の基本的な理念を理解している。	授業観察 ノート ワークシート 発表 定期考査
7・9月		○ホームプロジェクトと家庭クラブ活動 調査研究 個人発表	○	○	○	○	a:家庭科の学習と通して得た知識・技能を生かし、主体的に生活の課題を見いだし、改善しようとしている。 b:生活上の課題の解決をめざして科学的に探究し、表現している。 活動を通して得た結果について、発表したり、意見交換したりしている。 c:課題解決のために、具体的な計画を立て、実行し、さらに改善することができる。調査・研究に必要な資料を収集・整理できる。 d:自身や地域の生活を見つめ、生活上の課題を発見し、改善のための実践活動をする意義を理解している。設定したテーマを実践するために必要な知識を持っている。	レポート 発表 自己評価 相互評価

2学期	第2章　子どもと共に育つ	○子どもと共に育つ 1. 命を育む 2. 子どもの育つ力を知る 3. 親として共に育つ 4. 子どもとの触れ合いから学ぶ 5. これからの保育環境	○	○	○	○	a:子どもに対するイメージを膨らませ、実践的・体験的な学習を通して、学習に取り組もうとしている。 保育における親と社会の果たす役割について考えようとしている。 子どもの権利と福祉について考えようとしている。 b:子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を捉え、子どもの環境について考え、意見をまとめ、発表できる。 親の役割や子どもを生み育てることの意義について考え、意見をまとめたり、発表したりすることができる。 少子化、育児不安、児童虐待、子どもの貧困など、現代の子どもを取り巻く環境の変化と課題について考え、新聞・書籍。インターネットを活用したり、地域の関連機関へ調査に出向いたりして、資料を収集して調査することができる。 c:親の役割や子どもにとって望ましいい保育環境について、自分の考えを入れながらまとめることができる。 子どもの生活や遊びについて調査・観察したことをまとめ、発表することができる。 d:子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を理解している。 子どもの生活の概要を理解している。 子どもは生活のなかで関わることを通して成長することを理解している。 生命の尊さを認識するとともに、愛着の形成や社会的規範を身につけさせる上で、保育における親の役割を理解している。 子どもを取り巻く環境整備と社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 子どもの権利と福祉について理解している。	授業観察 ノート ワークシート レポート 発表 定期考査
	第3章　高齢社会を生きる 第4章　共に生き、共に支える	○高齢社会を生きる 1. 高齢期を理解する 2. 高齢者の心身の特徴 3. 高齢者を支える 4. これからの高齢社会 ○共に生き、共に支える 1. 私たちの生活と福祉 2. 社会保障の考え方 3. 共に生きる	○ ○	○ ○	○ 	○ ○	a:高齢者の生活について関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:高齢者の生活について、家族や地域の生活を見つめて課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:高齢者と適切に関わることができたり高齢者の自立生活を支える技術を身に付けている。 d:高齢者の生活について理解し、家族・地域・社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身に付けている。	授業観察 ノート ワークシート レポート 発表 定期考査

3学期	第5章　経済生活を営む	○経済生活を営む 1. 職業生活を設計する 2. 計画的に使う 3. 国民経済・国際経済を家庭の経済生活 4. 現在の消費社会 5. 消費者の権利と責任 6. これかの消費生活と環境	○	○	○	○	a:消費生活と生涯を見通した経済の計画・管理、生活設計について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:消費生活と生涯を見通した経済の計画・管理、生活設計について、考え、工夫している。 c:消費生活と生涯を見通した経済の計画・管理、生活設計を立案するための技術を身に付けている。 d:現在及び将来の消費生活と経済の計画・管理、生活設計のために必要な知識を身に付けている。	授業観察 ノート ワークシート 発表 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　＊は、ワークショップ、実習・実験など実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習活動を示している。

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。